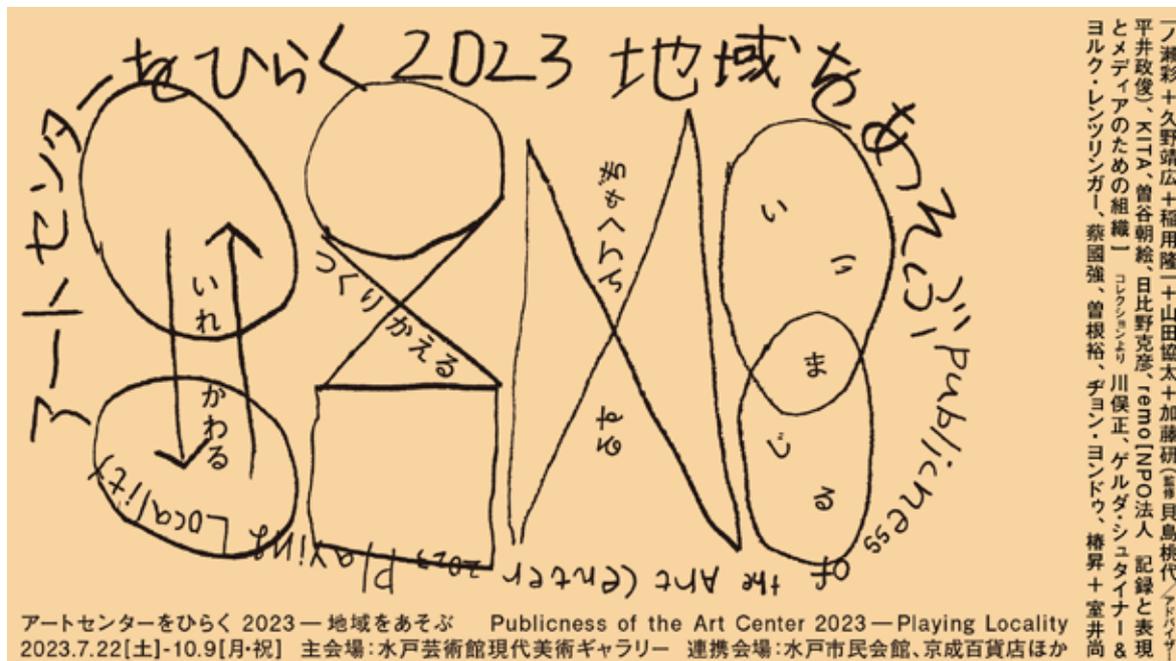


アートセンターをひらく 2023—地域をあそぶ



グラフィックデザイン：長嶋りかこ (village®)

【展覧会概要】

展覧会名：アートセンターをひらく 2023—地域をあそぶ

会 期：2023年7月22日（土）～10月9日（月・祝）

開場時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）＊水戸市民会館 8:30～22:00 / 京成百貨店 10:30～19:00

会 場：主会場 水戸芸術館現代美術ギャラリー

連携会場 水戸市民会館、京成百貨店ほか

出品作家：一ノ瀬彩・久野靖広・稲用隆（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）+ 山田協太・加藤研（筑波大学芸術系）+ 茨城大学・筑波大学学生有志／監修：貝島桃代（アトリエ・ワン、ETHZ）／アドバイザー：平井政俊（平井政俊建築設計事務所）、KITA、曾谷朝絵、日比野克彦、remo [NPO 法人 記録と表現とメディアのための組織]

コレクションより：川俣正、ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー、蔡國強、曾根裕、ジョン・ヨンドウ、椿昇+室井尚

休 館 日：水戸芸術館 月曜日（※ただし9月18日、10月9日開館）、9月19日（火）

京成百貨店 8月23日（水）、9月13日（水）、10月4日（水）

入 場 料：パス一般900円、団体（20名以上）700円

大学生以下 / 70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

＊証明書が必要です。大学生の入場無料は本展限定！

●1年間有効フリーパス「年間パス」2,000円

●シニアのための特別割引デー「First Friday」：65～69歳の方は毎月第1金曜日100円

＊証明書が必要です

＊連携会場への入場は無料です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団、水戸市民会館

助 成：一般財団法人自治総合センター

特別協力：株式会社水戸京成百貨店

協 力：サントリーホールディングス株式会社

企 画：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

水戸芸術館の隣に開館する市民会館の門出を祝い、「地域」と「あそぶ」をテーマに当館から周辺地域へつながる展覧会を「アートセンターをひらく」第2弾として開催します。本展では、当館現代美術センターの「アートセンター」としての特徴をふまえ、ギャラリーを「展示と鑑賞」に加え「アートが生まれる場」と捉えます。アートセンターの「創造」の役割を前面に押し出し、アーティストはもちろん地域の人びとの創造性が引き出されるような場をひらきます。

主会場となる当館現代美術ギャラリーでは、子どもからシニアまで幅広い層の人びとが創作と交流を楽しめる場を設け、また「地域」と「あそぶ」をキーワードにコレクション作品を展示、そして地域の団体や市民と協働してきたプロジェクトを紹介し、街中展開の拠点となります。さらには、アーティストたちが仕掛けたプロジェクトに、思わずはまってしまうことも！？プロジェクトによって様子が変わり、新しい何かが生まれていくアートセンターへ、ぜひ遊びにきてください。

「ひらくの間」

一番目の展示室が創作と交流の場に様変わり！工作や手芸の素材と道具、図書を備え、小さいお子さんと過ごせるエリアや、のびのび描けるお絵描きコーナーも。アーティスト発案の常設ワークショップから夏休みの宿題まで、思いおもいに過ごせます。週末にはイベントを開催することもあります。

※2004年から行っている「高校生ウィーク」カフェの拡張版です。



「アートセンターをひらく 第1期」
ひらくカフェの様子 2019年
撮影：松本美枝子（参考図版）

【本展のポイント】

●ギャラリーを「アートが生まれる場」と捉える企画展「アートセンターをひらく」の第2弾を開催。水戸芸術館現代美術センターは、美術館の中でもとりわけ展覧会等企画事業に注力するアートセンターとして、今を生きるアーティストとともにこれまで多くのアートを創り出してきました。本展では当館のアートセンターとしての特徴を前面に押し出し、ギャラリーを「アートが生まれる場」と捉え、展示に加えて創作と交流が生まれる展覧会を開催します。

●表現が拡張し、シーンが更新される、新しい何かが生まれるアートセンター。

主会場となる水戸芸術館現代美術ギャラリーには、アート・コレクティブ KITA によるプロジェクトや曾谷朝絵のぬり絵ワークショップなど、来場者が会期中いつでも気軽に参加できる創作を用意。来場者のかかわりによって、予定調和の枠を超えた新しいシーンが生まれていくことが期待されます。地域の人びとがその変化を体験できるよう、本展に限り1枚のチケットで会期中何度でも入場可能です。

●隣に水戸市民会館が新しく開館することを記念して、MitoriO 地区の3館が連携。

水戸芸術館、水戸市民会館および京成百貨店という個性の異なる3つの施設が並ぶ一帯が MitoriO

と名付けられました。この3館を、色彩と光があふれる曾谷朝絵によるパブリックアートが祝祭的につながります。また、水戸芸術館を拠点に2005年から行っている日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト」の水戸版も、水戸市民会館の初参画、京成百貨店の活動再開によってこの度3館連携を実現し、人と人、人と地域をつなぐ協働を図ります。

●水戸の中心市街地を過去・現在の視点から見つめ直し、未来を考える2つのプロジェクト。

2004年筑波大学貝島研究室（当時）+アトリエ・ワン監修のもと水戸中心市街地を建築的アプローチから調査し、その活用・遊休状況をまとめた『dead or alive』の追跡調査を、茨城大学と筑波大学との協働により実施し「続・水戸空間診断」としてまとめます。また、市民の自宅に眠る8ミリフィルムを発掘し、デジタルアーカイブ化するとともに街の風景を地域の人びとと見つめ直すremo『ホーム・ムービング!』では水戸芸術館を拠点に街中での上映も予定。水戸商工会議所との共催による2つのプロジェクトを紹介します。

●「地域」と「あそぶ」をキーワードに水戸芸術館コレクション作品を展示。

当館コレクション作品は、これまで当センターが開催した展覧会や教育プログラム等事業の記録を示すアーカイブでもあります。本展では「地域」と「あそぶ」をキーワードにコレクション作品を展示します。50メートルに及ぶ巨大作品、椿昇+室井尚《飛蝗(プロジェクト・インセクト・ワールド)》も9年ぶりに広場で展示し、公開で一部修復を行います。本作の復活に手を貸して下さる「バッタ復活ボランティア」も募集します。

【出品作家】

一ノ瀬彩・久野靖広・稲用隆一（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）+山田協太・加藤研（筑波大学芸術系）+茨城大学・筑波大学学生有志／監修：貝島桃代（アトリエ・ワン、ETHZ）／アドバイザー：平井政俊（平井政俊建築設計事務所）

筑波大学貝島研究室とアトリエ・ワンは、水戸芸術館で2004年に開催した「カフェ・イン・水戸2004」展において、水戸の中心市街地の現状について調査し、その結果を小冊子『dead or alive 水戸空間診断』にまとめた。それから18年を経た2022年より、貝島桃代（アトリエ・ワン、ETHZ）、一ノ瀬彩・久野靖広・稲用隆一（茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻）、山田協太・加藤研（筑波大学芸術系）、平井政俊（平井政俊建築設計事務所）および茨城大学工学部都市システム工学科・同大学院理工学研究科都市システム工学専攻の建築デザインプログラム、筑波大学大学院人間総合科学学術院デザイン学学位プログラムの学生有志らで追調査を実施。水戸の街の過去を振り返り、現状を分析し、未来を創造する糧となることを目指している。

KITA

日本とインドネシアを拠点とするメンバーによって、2022年に結成された拡張するアート・コレクティブ。インドネシア語で「わたしたち」を意味する言葉=Kitaを手がかりに、人びとを招き入れていく彼らの活動は「だれがKITAか」を曖昧にし、芸術の主体について問いなおす。言語や文化、ジャンルの境界線を越えて交わされるコミュニケーションから、祝祭的なプロジェクトや作品だけでなく生活

空間で用いる実用品も生み出している。2023年5月現在のコアメンバーは、アディティヤ・プトラ・ヌルファイジ、アナスタシア・ユアニタ、北澤潤、シティ・サラ・ライハナ、津田翔平、能作淳平、ミヤタユキ、ムニフ・ラフィ・ズディ（五十音順）。

曾谷朝絵

美術家。絵画とインスタレーションの両面で制作を続けている。2006年東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科油画専攻にて博士号（美術）取得。2001年「昭和シェル石油現代美術賞」グランプリ、2002年「VOCA展2002」VOCA賞（グランプリ）、2013年「横浜文化賞文化・芸術奨励賞」、「神奈川県文化賞未来賞」他、受賞多数。2013年に水戸芸術館にて個展「曾谷朝絵展 宙色（そらいろ）」を、2022年にスパイラルガーデンにて個展「曾谷朝絵展 とことこふわり」を開催するなど全国で発表多数。東京、ニューヨーク、バーゼル、西安などで展覧会やパブリックアートを制作。2014年文化庁在外研修員としてニューヨークに、2018年TOKAS 二国間交流事業派遣クリエイターとしてバーゼルに滞在。作品集「曾谷朝絵 宙色（そらいろ）」を青幻舎より刊行。

<http://www.morning-picture.com/>

日比野克彦

1958年岐阜市生まれ。1984年東京藝術大学大学院美術研究科修了。段ボールを素材に制作した立体作品で注目を集め、1982年日本グラフィック展大賞受賞。以降、1995年ヴェネチア・ビエンナーレなど多数の展覧会に出品。近年は地域の特性や関係性、人びとの個性を生かしたアートプロジェクトを数多く行う。2015年からは障害の有無、世代、性、国籍などの違いを超えた人びとの出会いによる相互作用を表現として生み出すアートプロジェクト「TURN」を監修。2017年から「アート × 福祉」をテーマにした人材育成プロジェクト「Diversity on the Arts Projects」を監修。2015年芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。現在、東京藝術大学学長、岐阜県美術館館長、熊本市現代美術館館長。

remo [NPO 法人 記録と表現とメディアのための組織]

メディアを通じて「知る」「表現する」「話し合う」といった3つの視点で活動する非営利組織。2002年に大阪で設立。メディア・アートなどの表現活動を促すほか、「文房具としての映像」という考え方の普及、映像を囲む新しい場づくりなどを行っている。例えば、(1) 6つのルールに則って撮影された映像を鑑賞しながら話し合う映像の句会「remoscope」、(2) はじめて出会った人たちが脚本から鑑賞までの映画づくりを3時間で行う「ご近所映画クラブ」、(3) みずからの声をみずから伝えるメディアづくりを学ぶ「Alternative Media Gathering」、(4) 私的な記録の価値に注目したアーカイブ「AHA! (人類の営みのためのアーカイブ)」などの活動がある。

▼コレクションより

川俣正、ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー、蔡國強、曾根裕、チョン・ヨンドゥ、椿昇+室井尚

【関連プログラム】

- ・特に記載がない限り参加費無料、どなたでもご参加いただけます。ただし、展覧会入場券が必要です。
※無料でご入場いただける方についてはチケット情報をご確認ください。
- ・申込方法等詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

▼ワークショップ

■ 曾谷朝絵「もりのいろ」描き初めイベント

美術家の曾谷朝絵さんが描いた絵に、色鉛筆で自由に色を重ねて、自分だけの塗り絵を完成させます。できた絵を壁に貼ってつなげて、会場に大きな作品をつくりましょう。会期中常設されるこのワークショップの描き初めイベントを曾谷さんと一緒に行います。

日時：7月22日（土）10:30～11:30

会場：現代美術ギャラリー「ひらくの間」

定員：30名 ※申込不要／先着順



曾谷朝絵《Topia》2022年

■ 「KITAの間」をひらく

インドネシア語で「わたしたち」を意味する言葉=Kitaを手がかりに、人びとを招き入れながら拡張するアート・コレクティブ、KITA。境界を越えてどこかとつながる“離れ”で、日本とインドネシアを拠点にする彼らの日常的な試みがひらかれていきます。「KITAの間」のはじまりをのぞきに來ませんか？

日時：7月22日（土）16:00～17:00

会場：現代美術ギャラリー第7室

定員：30名程度 ※申込不要／先着順

■ 夏のこらぼ・らぼ2023

大人も子どもも楽しめる恒例のアーティスト・ワークショップ。今年には出品作家の曾谷朝絵さんと、即興彫刻をつくるワークショップを行う Oku Project を講師に迎えます。ご家族やお友達といっしょにお楽しみください。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

日程：8月19日（土）、20日（日）

会場：現代美術ギャラリー内ワークショップ室など

受付：7月18日（火）開始、7月30日（日）〆切

※要申込／抽選制

※申込方法、プログラム等詳細はチラシ・ホームページをご覧ください。



Oku Projectワークショップ参加者の作品 2018年

■ 部活動

「3人寄ればブカツの提案ができる」をルールに、美術館を拠点にした市民主導の対話と創作のプログラム。

会期中、メンバー主導で実施し、紹介ブースを設けます。

活動予定：ほんでたいわ部、織り部、書く。部

▼トーク／シンポジウム／座談会

■ シンポジウム「続・水戸空間診断」

2004年に水戸の中心市街地の状況について調査し、まとめた『dead or alive 水戸空間診断』の続編を本展では紹介します。建築家の貝島桃代氏監修のもと、学生らと追跡調査を行った茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻および筑波大学芸術系の先生方を迎え、シンポジウムを行います。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

日時：7月23日（日）

会場：現代美術ギャラリーワークショップ室

定員：40名 ※申込不要／先着順

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団、水戸商工会議所

■ 鑑賞会＋トーク「ホーム・ムービング！」

「ホーム・ムービング！」は、8mmフィルムなどの市井の人びとの記録や記憶を通して、水戸の生活風景を考える、remo [NPO法人 記録と表現とメディアのための組織]によるアーカイブ・プロジェクトです。2017年から水戸芸術館現代美術センターとの協働で行っている本プロジェクトでは、地域の人びとから寄せられた8mmフィルムのデジタル化や公開を進めてきました。本展では市内各所で開催するスクリーニングや鑑賞会で、それぞれに呼び起こされる記憶に着目して語り合う場を設けます。日程および会場など詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団、水戸商工会議所



■ トークイベント「教えて先輩！ーコレクション作品に迫る」

水戸芸術館のコレクション作品は、当館で行われた展覧会や教育プログラムの活動の軌跡を示すアーカイブでもあります。どのような経緯で收藏されるに至ったか、当時の担当学芸員やアーティストに話を聴きます。

① 曾根裕 《19 番目の彼女の足》

日時：8月5日（土）14:00～15:30

会場：現代美術ギャラリー「ひらくの間」

出演：黒澤伸（金沢芸術創造財団 事業課 芸術・交流アドバイザー）

② 椿昇＋室井尚 《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》

日時：9月10日（日）13:30～14:30 ※雨天の場合9月17日（日）に延期

会場：広場

出演：椿昇（現代美術作家）、森司（アーツカウンシル東京 事業部事業調整課長）

定員：各回40名程度 ※申込不要／先着順

■ ワーク＋座談会「ふれあい」

前回の「アートセンターをひらく」（2019-2020）で身体表現と対話の長期ワークショップ「変身」を行った砂連尾理さんを招き、コロナ禍で身体的なふれあいのむずかしさを経験した今、改めて「ふれあい」について考えます。文章を読み、ちょっと体を動かすことを通して言葉に紡いでいく、ワークとてつがくカフェ形式の座談会です。

日時：10月8日（日）14:00～16:30

出演：砂連尾理（ダンサー／振付家）／ファシリテーター：西村高宏（福井大学）／ファシリテーション・グラフィック：近田真美子（福井医療大学）

会場：現代美術ギャラリー「ひらくの間」

定員：40名程度 ※申込不要／先着順

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。作品についてそれぞれの視点から対話し、異なる見え方を味わいましょう。

日時：8月5日（土）より毎週土曜日 各日 15:30～（約40分）

場所：現代美術ギャラリー入口にお集まりください。

※申込不要。ただし、予告なく中止になる場合があります。

【修復・公開プロジェクト】

■ 椿昇＋室井尚 《飛蝗（プロジェクト・インセクト・ワールド）》

全長50mの巨大なバッタは当館のコレクション作品です。本作を当館広場で展開し、作品の一部修復を行うとともに展示します。その巨大さゆえに、バッタの展開には多くの手助けが必要です。一緒に本作を蘇らせるバッタ復活ボランティアも募集します！

日時：9月9日（土）、10日（日）各日 10:00～17:00（予定）

※雨天の場合9月16日（土）～18日（月・祝）に延期

会場：広場

助成：タカシマヤ文化基金



撮影：大谷健二

【MitoriO 3館連携プロジェクト】

■ 曾谷朝絵 パブリック・アート

美術家・曾谷朝絵さんによる色彩と光にあふれる大型インスタレーションが、MitoriOの3館をシンボリックにつなぎます。光や角度、時間帯によって様相を変える表情豊かな作品を、会場を巡りながらお楽しみください。

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリーおよび会議場、
水戸市民会館2階、京成百貨店北側2階



曾谷朝絵《鳴る色》2021年 新山口駅北口
Photo: Satoru EMOTO, SARUTO Inc.
(参考図版)

■ 日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2023水戸」

朝顔を育てることを通してコミュニティを育み、収穫された種を通して人や地域をつなぐ——水戸で2005年から続く本プロジェクトを、今年は4年ぶりにフルスケールで展開。水戸市民会館の初参画、京成百貨店での活動再開に伴い3館連携で実施します。

期間：2023年5月～11月

会場：水戸芸術館2階回廊、水戸市民会館地上1階外周、
京成百貨店地下1階サンクンガーデン

主催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、
公益財団法人水戸市芸術振興財団、株式会社水戸京成百貨店、
水戸市民会館

協力：茨城県立大子清流高等学校、水戸21の会、
サントリーホールディングス株式会社



撮影：仲田絵美

【同時開催】

■ 日比野克彦「HIBINO CUP」

アーティストの日比野克彦さんが発案した、アートとスポーツが融合したワークショップ。チームごとに段ボールなどでゴールとボールをつくり、Tシャツに絵柄を描いてユニフォームを仕立て、ミニサッカーで競い合います。

日時：9月30日（土）10:00～16:00

会場：広場

対象：小学生以上

参加費：1人500円

主催：HIBINO CUP 実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団



「HIBINO CUP」の様子

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

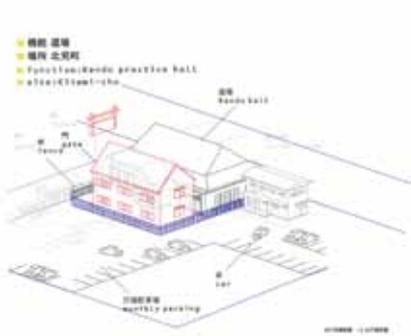
1



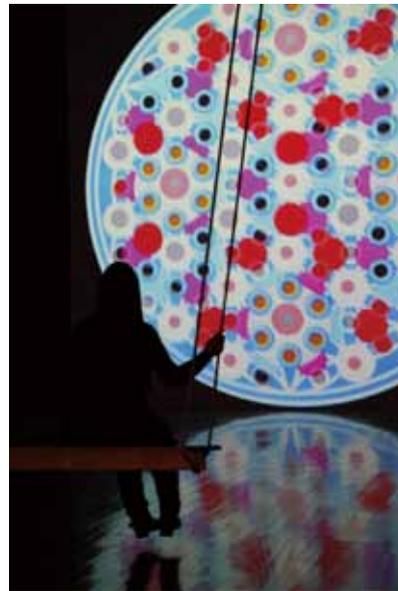
2



3



4



5



1. 曾谷朝絵《鳴る色》2021年 新山口駅北口 Photo: Satoru EMOTO, SARUTO Inc. (参考図版)
2. KITA「KITAの間」プランドローイング
3. 《2004年に2022年を重ね合わせた「水戸東武館」》「続・水戸空間診断」より
4. ゲルダ・シュタイナー&ヨルク・レンツリンガー《美の論理》2012年 水戸芸術館所管 撮影：木奥恵三
5. 日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2022水戸」 撮影：仲田絵美

プレス向け内覧会のお知らせ

2023年7月21日（金） 14:00～15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：出品作家

竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：竹久侑（芸術監督）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

*詳細は公式ツイッター http://twitter.com/MITOGEI_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅(品川、上野発もあり)から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後、駅方向に戻り、すぐの交差点で大通り(国道50号)を渡り、そのまま真直ぐにお進みください。徒歩2分。

◎料金:特急 片道3,890円 / 普通各停 片道2,310円(2023年4月現在)

※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。JR 東日本旅客鉄道 Tel.029-221-2836

<http://www.jreast.co.jp/>

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」(赤塚又は茨大ルート)で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。

◎料金:東京駅一水戸駅 片道切符2,250円(2023年4月現在)。※お得な割引チケットあり。

※詳しくはこちらをご参照ください。茨城交通 Tel.029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面にお進みください。約20分、国道349号との交差点「南町3丁目」(左手にみずほ銀行)で左折、2つ目の信号でまた左折してください。そこから1つ目の信号を過ぎたところで水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場のマークが見えます。

◎駐車場料金:30分まで無料、1時間まで200円、以降30分毎100円 / 営業時間:7:00～23:00

※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。

東日本高速道路「ドラぷら」 Tel.0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>